

## 感染症予防と安心・安全なサポートの両立

NPO法人 ひかりの森理事

社会福祉士、歩行訓練士 小倉 芳枝

新型コロナウイルスの感染拡大以来、支援場面では対人距離が近くなるために「どうしたら良いのか」と不安の声がきかれます。

日本歩行訓練士会、東京盲ろう者との会が支援についてのガイドラインを出しました。共通するのは「感染予防の対策をした上で、支援はいつも通りに」という考え方です。視覚障害者も盲ろう者も、日常生活を安全に過ごすために人との濃厚接触をせざるを得ない。感染防止を優先するあまり危険な状況を招くことは避けなければならない。支援では安全性・安心感の確保が最優先であり、安全性の確保の中に新型コロナウイルスの感染防止も重要な観点として含まれる、ということです。

具体的に挙げられているのは

- ・検温、マスク着用、手洗い等の配慮は双方が十分に行う
- ・話す際は対面を避け、同方向を向くようにする
- ・直接物に手で触れるのは必要最低限にする

※盲ろう者との会は「触れることを制限しない。しっかり手を消毒して触る」等、一般的な感染防止対策です。「コロナ禍で町中での声かけが減ってしまった」という声がある一方、「減ったとは感じない。丁寧に声をかけてもらうことが増えた」「買物で品物に触れたり、顔に近づけて見たりするのを避けたくて、初めて店員にサポートを依頼したら快く対応してくれた」ということもお聞きします。おそらく、世の中の多くの方は視覚障害者が困っていたらサポートしたいと考えていると思います。このご時世、「声をかけたり、手を取ったりしても大丈夫だろうか」という戸惑いを感じるのは無理もないでしょう。視覚障害者も健康・衛生管理の対策をしっかり取っていること、接することでのリスクは無いことをしっかりと発信していかなければと考えております。

### ★ 賛助会員を募集中!!

「人のために、皆のために、社会のために」と思っている方。

同じ思いを持った仲間を作りたい方。

あなたの豊かな経験や貴重な体験をひかりの森で活かしましょう。

**越谷の宝『ひかりの森』を応援しましょう!**



音楽療法プログラムに参加して

帝京大学 視能矯正学科准教授 林 弘美(賛助会員)

先日、ひかりの森主催の音楽療法プログラムに学生と共に参加させていただきました。音楽療法士 中川洋子先生のご指導で、日ごろ休止している脳の領域を活性化しながら音楽を楽しむという内容でした。軽い気持ちで参加させていただきましたが、やっているうちに余裕がなくなりました。一番出来なかったのは、両手じゃんけんです。先生は「目で確認してはダメですよ」と助言してくれました。確かに、右手を目で確認してから左手に指令を出したのでは間に合いません。そこで次の手段として、左手用にグーに負ける「チョキ」チョキに負ける「パー」パーに負ける「グー」と音声化し、呪文のように唱えてみました。が、残念なことに、右手も左手に付いてきてしまっ、結局失敗してしまいました。周りを見回すと、みなさんは易々とクリアされています。どうやら、ひかりの森では、このようなトレーニングを日々されているらしいのです。トングのような楽器を手渡され、振ってみるとお腹に伝わるズーンという重い響きが、「楽器なのに、何て不思議な鳴らし方なのだろう?!」その振動は手から肩そして背骨を伝わってジーンと身体に響いていきます。その楽器は、トーンチャイムといって、チタン製で、身体への響き方は材質によって違うのだそうです。

いつも貴重な体験を与えてくれる「ひかりの森」ワンダーランドに 感謝! の1日でした。

### 点字名刺はいかが?

就労が難しいひかりの森の利用者が、

既成の名刺に点字をいれる生産活動に励んでいます。

※全国の皆様からのご注文をお待ちしています。

※ホームページからも申し込みが出来ます。

ホームページ <http://npo-hikarinomori.com/>

